



追悼

山辺朗子先生への追悼のことば

岩間 伸之（大阪市立大学大学院）

山辺朗子先生（龍谷大学教授）が、平成 27 年 11 月 25 日にご逝去されました。61 歳の若さでした。本学会における現理事として、総務担当の要職にも就かれていました。

山辺先生には、公私にわたり、30 年近くお世話になってきました。闘病はここ数年にわたり、亡くなる数日前、非常に厳しい状態であることを知りました。感謝の気持ちをきちんと伝えたいと思ってきましたが、それが叶わなかったのがとても心残りです。

山辺先生と一緒に、『ジェネラリスト・ソーシャルワーク』（L. C. ジョンソン・S. J. ヤンカ著／山辺朗子・岩間伸之訳、ミネルヴァ書房, 2004 年）を刊行させていただいたことは、山辺先生との一番の思い出であり、また何よりの財産です。ソーシャルワークの新しい息吹を強く感じ、苦しくもワクワクしながらの翻訳作業であったことを今でも鮮明に覚えています。私にとって、もしこの翻訳作業がなければ、「地域を基盤としたソーシャルワーク」の理論化に至ることはありませんでした。

山辺先生は、その後、『ジェネラリスト・ソーシャルワークの基盤と展開－総合的包括的な支援の確立に向けて－』（ミネルヴァ書房, 2011 年）と『ジェネラリスト・ソーシャルワークにもとづく社会福祉のスーパービジョン－その理論と実践－』（ミネルヴァ書房, 2015 年）を刊行され、日本におけるジェネラリスト・ソーシャルワークの展開に向けて精力的に取り組んでこられました。一連の著作は、日本のソーシャルワーク研究及び実践を一步前に推し進めることになったと感じています。

『ジェネラリスト・ソーシャルワーク』の訳出の作業は、実は足かけ 9 年近くの時間がかかっています。その間、ジョンソンの理論も進化し、それを追いかけていくという作業でもありました。遅々として進まない翻訳作業でしたが、結果的に多くの対話の機会となり、山辺先生の豊かな人間性に触れることができたことはとても贅沢な時間となりました。

そこで常に感じてきたことは、混じり気のない純粋な実践へのまなざしでした。クライアントに対する本人の側からの深い理解、そしてその本人を支えるワーカーへの妥協のない厳しさとやさしさ。これが現場の多くのワーカーから支持されてきた所以なのだろうと思います。そのまなざしは、『子どものニーズをみつめる児童養護施設のあゆみ－つばさ園のジェネラリスト・ソーシャルワークに基づく支援－』（大江ひろみ・山辺朗子・石塚かおる編著、ミネルヴァ書房, 2013 年）にも色濃く反映されています。山辺先生が児童養護施設や母子生活支援施設などにおいて真摯に取り組んでこられたスーパービジョンの実践が遺したものは、きっと現場で引き継がれていくはずです。

ここ数年、顔を合わせるたびに、「忙しそうやけど、からだ大事にせなあかんよ」と、いつも声をかけてくださいました。その時のやさしい笑顔が今も蘇ります。

心からご冥福をお祈りします。